

鍛鉄：西田 光男 Nishida Mitsuo



洋書を教師に鍛鉄を独学で習得。1992年秩父市に工房を建て門扉や手摺、フェンス、モニュメントなどの鍛鉄作品を制作し国内外で活躍中。1996年からヨーロッパ各国の鍛鉄イベントに招待され出展、講演などを行っている。2011年ドイツの出版社『HEPHAISTOS』（ヒファイストス）誌が選ぶ世界7名の金属工芸家の一人に選ばれ、社会貢献も軸に、2012年3月より津波被災地のこどもたちの元へ「首長恐竜の親子」を展示巡回している。海外からの研修生も受け入れ西田独自の鍛鉄を世界に発信している。

設置作品について 場所：Vories Cottage前「庭園」正面看板

『文字は神戸の海の色』と図面に書き込みましたがさて？
どのような色にしようか。
『海の色は空の色』。
しかし、海を眺める時々の感情で微妙な色の違いがあるかも知れませんね。
じゃー、サインはどんな色になったのかなとリス達が確かめに来ました。



和紙：福嶋 秀子 Fukushima Hideko



伝統的な和紙の素材と現代的なデザインを融合させ、モダンアート屏風、アクセサリ、バッグ、財布など、現代空間、生活に合ったアート感覚の作品を制作している。2007年イタリア・ミラノ『アルテジャポネ』にて「日本のかたち展」に参加。2009年『暮らしの中の和紙のかたち』の本を出版。2010年～14年NHK『すてきにハンドメイド』にてアクセサリ、ホルダー、バッグの作り方を紹介。「暮らしの中の和紙のかたち」を視点に様々なものを生み出す造形和紙の世界を国内外の展示会で多数展開している。

設置作品について 場所：入口左側壁面パネル

日暮。太陽が昇り、日々の暮らしを営む日常を描こうと思いました。
同じ日は無く、積み重ねられた日々は振り返ると愛おしく、かけがえのない時間となる。和紙に黄色、金色を重ね、金箔を貼り合わせそんな想いを表現しようと思いました。



陶芸：角倉 起美 Sumikura Kazumi



2016年より国登録有形文化財であるヴォーリズ六甲山荘の保存活動に携わっている。建築は「衣・食・住」を展開する場であり、構成要素として特に工芸の技が集積されていることに着目し、工芸的アプローチによる関係性のデザインを実践研究している。2003年より六甲山のアトリエにて陶芸作品を制作。2022年「私の睡鳩荘物語角倉起美陶芸展」軽井沢タリアセン。2023年「陶のかたち 20周年記念展」GALLERY北野坂。工芸作品を建築を含む環境に組み込む新たな工芸的ランドスケープデザインの世界を展開。個展、グループ展を多数開催している。

設置作品について 場所：クラフトセンター床タイル

キルンキャスト ガラス、アルミ 鋳造、陶タタラ技法で成形したタイルは、すべて違う装飾意匠をみることができます。多くの方々との協力で制作したタイルは、この場でこれから長い時間をかけて繰り広げられる物語の舞台になります。



吉野檜灯り：坂本 尚世 Sakamoto Hisayo



吉野檜の製材所を営む環境で育ち、1998年から「吉野の素材を使い土地の魅力を伝えていきたい」という思いを胸に癒しの灯を創り始め、国内外の展示会、受注制作を多数行なっている。2004年アトリエ+常設ギャラリーショップ「あかり工房吉野」をオープン。2012年フランスパリデザインウィーク「now le off」に出展。2017年LEXUS NEW TAKUMI PROJECT 2017奈良県代表に選出。2020年奈良県コンベンションセンターエントランスに、吉野ひのぎ光壁を設置。灯りでホッとしたり安らぎのひとときを届けたいと活動している。

設置作品について 場所：ペンダントライト、シャンデリア

薄く削った吉野ヒノキや貼り重ねた吉野和紙に光を透過させると灯るのは温かな夕陽色の灯り。
この灯りでさらに、リラックスできる心地よい空間になる様にと願い制作しました。



ステンドグラス：DURT 森本 康代

Durt-Morimoto Michiyo



60年前の留学中、南仏プロヴァンスのセザンヌのアトリエを見て、松の木が在る地中海の風景が舞子の松林の在る瀬戸内海に似た空気を感じ、神戸・塩屋の切り立った崖の上にアトリエを立てることを夢見ました。のちに、海沿いの一の谷古戦場に続く波打ち際を見下ろす高台に「塩屋の海の上のアトリエ」として実現しました。

気候を目で感じ刻々と変わる雲の表情そして海の変化に心を奪われ、創造の根源となっています。

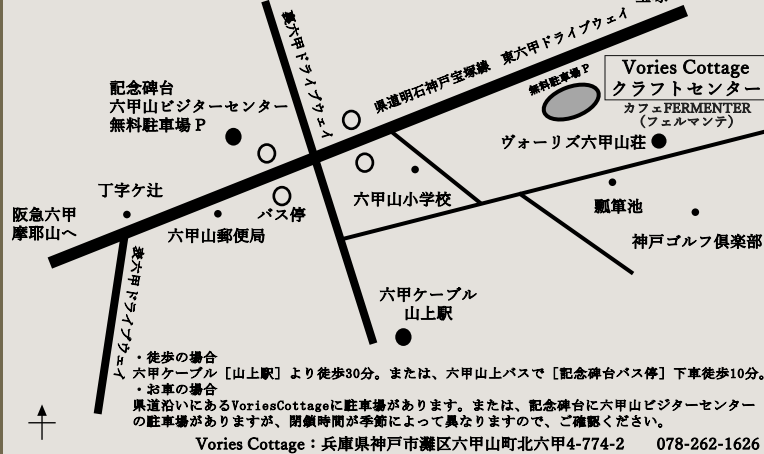
1970年神戸市垂水区塩屋に、アトリエステンドグラス「塩屋の海の上のアトリエ」を設立。現在まで、国内外の教会、学校、公共施設、住宅などに作品を多数設置しています。



設置作品場所：入口扉両脇ステンドグラス

塩屋のアトリエ

ヴォーリズ六甲山荘へのAccess map



竣工記念企画 Vories Cottage 工芸の集積5人展

2025年4月5日(土)～5月11日(日) 11:00～16:00 土・日・祝のみ

会場 Vories Cottage クラフトセンター 入場無料

場所 国登録有形文化財 ヴォーリズ六甲山荘敷地内
神戸市灘区六甲山町北六甲4-774-2 078-262-1626

2025年4月5日『Vories Cottage』がオープンいたします。築90年の国登録有形文化財『ヴォーリズ六甲山荘』を未来に繋ぎヴォーリズ建築のエッセンスを共有するため、ヴォーリズ建築研究の第一人者である山形政昭氏に基本デザインと監修、越智工務店に施工をお願いしました。

四季折々に表情を変えるコテージ前の庭園、入口を入ってすぐにクラフトセンター、左に進むとカフェを配置しています。また、六甲山の自然に溶け込む『草屋根』も特徴の一つです。

そして、この場所ですれ違う5名の工芸作家がデザイン、制作した作品がここかしこに組み込まれています。建築は工芸の集積であり、多くの方々の知識と技術が結集された賜物です。文化と自然の融合を象徴するユニークな山荘建築が完成しました。

どうぞ、五感で楽しむことができる『Vories Cottage』へお越しください。カフェ《FERMENTER》(フェルマンテ)では本格的なコーヒーと山荘カレーをご用意しております。皆様のご来場を心よりお待ちしております。

コテージとは、田園や山麓など素晴らしい自然のなかでの理想的な生活や昔の良き時代へのノスタルジアを象徴する存在といわれます。知られていくように、コテージ(山荘建築)建築はW.M.ヴォーリズの関心高い建築テーマだったに違いありません。旧小寺コテージ(ヴォーリズ六甲山荘)は、今に生きるヴォーリズ建築の名品であり、それから学んでこのVories Cottageを計画しました。実現に向けて皆様の様々なアイデアとエネルギーが結集してすすみました。オープニングを迎えてお祝いとお礼を申し上げます。

山形 政昭：大阪芸術大学名誉教授、関西学院大学客員教授

主催 一般社団法人 AMENITY CREATIVE SUPPORT CENTER

協賛 認定特定非営利活動法人アメニティ2000協会